

民児協 あこう

支えあう 住みよい社会 地域から

第 54 号 令和元年 春号



4月11日 御崎地区ふれあい花見の会

民生委員児童委員信条

- 一、わたくしたちは、隣人愛をもって、社会福祉の増進に努めます。
- 一、わたくしたちは、常に地域社会の実情を把握することに努めます。
- 一、わたくしたちは、誠意をもって、あらゆる生活上の相談に応じ、自立の援助に努めます。

- 一、わたくしたちは、すべての人々と協力し、明朗で健全な地域社会づくりに努めます。

- 一、わたくしたちは、常に公正を旨とし、人格と識見の向上に努めます。

児童憲章



- 児童は、人として尊ばれる。
- 児童は、社会の一員として重んぜられる。
- 児童は、よい環境の中で育てられる。



民生委員児童委員 各地区活動報告

御崎地区「友愛訪問活動」

御崎地区では、2月21日に友愛訪問を実施しました。今年も赤飯に、天ぷら、ほうれん草のごまあえ、筑前煮、だし巻き卵、りんごの入ったお弁当に、味噌汁をつけました。手づくりの小物は、靴クリップです。まちづくり推進協会のおたよりをつけて、一軒一軒訪問しました。皆さん楽しみに待ってくださり、とても喜んでいただきました。今後の地区活動支援協力が意欲がわきました。



赤穂地区「友愛訪問」

3月3日、まちづくり連絡協議会として赤穂地区の友愛訪問を実施しました。対象者は一人暮らし老人、高齢者世帯、寝たきり老人、認知症老人です。民生委員は9時に市民会館に集合し、友愛訪問時に手渡しする上書き、赤穂小学校児童のお手紙（2～6年の児童が360枚に心を込めて、お年寄りへの励まし文章）、お菓子を袋に入れて配達ができるようにしました。今年もお年寄りの方々の幸せや、健康をお祈りし、自治会長、民生委員、地域福祉推進委員が対象者宅に訪問し福袋を手渡しました。袋の中を覗かれると笑顔になりました。



坂越地区「坂越幼稚園児との交流（こま回し）」

2月26日、坂越幼稚園の年長さん31名、年少さん19名、民生委員と共にこま回しをしました。最初に年少さんが中央に出て、自動こまをアルミバットの上や床の上で回しました。次に年長さんがひもをこまに巻き、1,2,3の掛け声で回します。誰が一番長く回せるか競争です。「ワイワイ、ガヤガヤ、キャーキャー」と元気の声を聞き、この園児達がこれから大きくなり、一人の大人として育っていくのだと思うと、嬉しくもなり頼もしくもなりました。



城西地区「友愛訪問を行いました」

城西地区では、年8回の給食サービス、年3回の友愛訪問を行っています。1月22日には、246人の高齢者の方々に今年度3回目の友愛訪問を行いました。赤穂中学校の生徒が塗ってくれた掛け紙で包んだちらし寿司、カイロ、高級ティッシュに健康増進のためのお便りを添えて、一軒一軒お伺いいたしました。寒い日ではありましたが、皆さんとても楽しみに待っていてくださり、「いつもありがとう」の一言に、こちらも元気をいただきました。これからも、皆様のご多幸とご健康を祈りながら頑張っております。

高雄地区「おでん模擬店大好評！」

地域福祉推進連絡会では、毎年高雄地区ふるさとまつりで“おでん”を作って販売しています。前日からみんな総出でゆで卵の殻むき、大根やこんにゃくの下茹で等の後、大鍋で煮込んでいきました。6種類入って200円と安価で美味しいので、当日は早くから行列ができます。特に、一人暮らしの方や高齢者世帯の方が「家では炊かないので助かっているわ。来年もまたよろしくね」と喜んでくれています。準備は本当に大変ですが、まつりを盛り上げ、地域の人々の喜ぶ顔を見たくて、全員抜群のチームワークで“おでん屋”を切り盛りしています。来年もまたがんばります!!!



塩屋地区「伝承遊び指導の依頼を受けて」

今年も塩屋幼稚園からこま回しの指導依頼がありました。今回は年長組（70人）親子が対象です。1月11日、遊戯室に全員集合し、そこでこま回しの名人という紹介を受け、9人の民生委員が協力参加しました。名人ではありませんが、幼い頃の遊びの経験でその技を身につけています。園長先生の願いは、「出来た！」という達成感を味わわせ、自信につなげたいとの事でした。個別の指導で成功にこぎつけた園児は、皆の前でその技と喜びを発表し、指導した民生委員の名前まで覚えている事には驚きました。2月初めに、まだ成功していない園児に、もう一度指導をしてほしいとの要請があり、再度訪問しました。



有年地区「福祉弁当」

月に一度、福祉弁当をお届けしています。地域福祉推進連絡会の女性たちが朝から調理を始め、一品一品心をこめて、容器に詰めていきます。塩サバ、ちらし寿司、卵焼き、ポテトサラダにオレンジ、バナナ。色とりどりのおかずが次々と詰まっていきます。次は男性の出番、笑顔に会いにいざ出発、うららかな春の一日でした。



西部地区「給食サービス」

西部地区では、年間9回第2土曜日に一人暮らし老人・高齢者世帯に給食サービスを実施しています。民生委員7名・地域福祉推進委員14名が朝8時30分より赤穂西公民館に集まって、前日準備した材料をもとにどこに出しても恥ずかしくない弁当を作り、配達しています。弁当を配達した時の皆さんの笑顔と『ありがとう』の一言が励みになっています。

広報部会

- 民生委員児童委員は地域の皆様の相談に乗り、内容によっては適切な関係機関につなぎますので、遠慮なく相談してください。（福祉の支援活動）
1. 「育 児 不 安」 子育てに不安がある方も、民生委員児童委員に声をかけてください。
 2. 「声掛け・見守り」 市役所に登録された一人暮らしの老人、高齢者世帯を訪問して、心配ごとなどの相談を受けます。
 3. 「生活上の不安」 生活上の悩み・・・心配だけど、誰にも声をかけにくい、一人で悩まないで、民生委員児童委員に相談してください。
 4. 「福祉情報の提供」 民生委員児童委員は相談された内容について、市役所や関係する団体の福祉情報を提供します。
 5. 「介 護 相 談」 高齢者の生活が守れるように、地域包括支援センターなどと連携して活動しています。民生委員児童委員に気軽に相談してください。
- 年2回発行しています「民児協あこが」により地域住民に向けて、民生委員児童委員の活動情報を発信し、地域での福祉活動を推進します。

尾崎地区「平成最後の一人暮らし花見の会」

今年は平成最後の「一人暮らし花見の会」を尾崎公民館2階講堂で11時30分から13時まで実施しました。当日は地域福祉推進連絡会メンバーの女性は朝9時に集まり「おはぎ」などを作り男性は会場設営をして弁当を並べて準備しました。今年の参加者は、私たち28人と一人暮らしの方74人、尾崎地区連合自治会・まちづくりから5人、尾崎公民館1人また赤穂市社会福祉課から1人合計約110人でボランティアサークルの中村グループによる演技を楽しみました。





部会の抱負



児童福祉部会

赤穂市では、幼児教育の無償化についての取組の推進や子どもたちが健やかに育つ環境づくりなどの施策がかけられています。

第3子以降の幼稚園児及び小中学校生の給食無償化、保育所や認定こども園等の教育・保育施設を利用する満3歳以上の幼児も同様に給食費無償化の対象となる支援が始まります。

子どもたちとのつながりがスマホやゲーム機によっていろいろな体験の機会を奪われ社会問題化しています。親子の絆、人と人との関わりが希薄となっています。

おもいやりに満ちた福祉社会を築くために、地域のお祭りや季節の行事、公民館活動等、大人も、子どもも地域の行

事に参加することが重要です。各関係機関との連携を深めながら地域で相互に助け合う地域福祉活動を行いたいと思います。

障がい者福祉部会

少子高齢化が進む中、社会、家族の姿が大きく変化しています。生活課題、福祉課題の多様化がより一層深刻化しています。この度、災害時の要援護者支援活動について学び機会を得ることができました。

昨年の自然災害(台風・地震に伴う災害)を思い出し、6月大阪北部地震、7月豪雨災害、8月台風が姫路に上陸、9月には台風21号で関空冠水、北海道胆振東部地震など大きな災害が続きました。7月豪雨災害では、倉敷市真備町の犠牲者の8割が要支援

者(避難に困難が伴う高齢者、障がい者等)でした。

災害時の問題は環境で大きく左右され、自助・共助・公助を基本とした地域ぐるみの支援体制の確立が不可欠です。国は避難行動要支援者名簿の作成と一人一人の支援役、避難手段を決めておく「個別支援計画」の策定を促しています。日頃のチェック、情報の共有、防災意識の向上等、意識改革と行動指針が必要です。学びが共助に繋がりが共生社会の源になります。

老人福祉部会

老人福祉部会では、行事を行なう中で、地域の高齢者の方々とふれあいや話し合いの場を少しでも多く設け、高齢者を取り巻く環境や地域での役割などを、研鑽する活動

を進めてきました。施設見学の研修では、万寿園や加里屋マスターズ倶楽部の訪問、市外研修として神戸市の特別養護老人ホーム「駒どりの郷」の見学などを実施しました。

市内外での高齢者の現状を各施設の担当者からお聞きしたことや、利用されている一部の方ではありますが、困りごとやご意見をお聞きすることができ、我々の今後の活動の一助になったと感じた次第です。

今後、少子高齢化社会が進展する中で高齢者の方々の様々なニーズに少しでもお応えできるよう老人福祉部会の活動に生かしていきたいと思

無償の愛



「お母さんはどうしたら笑ってくれるん？お母さんの笑った顔かわいいもん。お母さんの笑顔好きなんや」ふざけてお風呂に入らない子ども達に雷を落とすときの言葉です。水族館に行った帰り道では、「何が一番かわかった？」「お母さん！」「何が楽しかった？」「お母さん！」子どもの中は私たち親のことでいっぱいでした。

親がイライラする時は子どもを自分の思い通りにしようとした時なのかも。反抗期は子どもが親の過剰な期待を手放している証拠。あなたの期待はお荷物ですよ、って。だから不安になるよりも、安心していいんです。

子育てに正解はありません。あるとするなら、お母さんがニコニコと幸せにしていること(*^^*)

「母親は無償の愛で子どもと接すると言うけど本当に無償の愛で接してくれるのは子どもの方だよ。

私達が怒っても、機嫌悪くても、無視してもなににしても、いつもいつも側にいてくれる。

愛を与えてくれるのはいつだって子ども」子どもといられる時間は案外短く、抱きしめられるのはほんの一瞬です。

今しかできない子育て、一緒に楽しみましょ♪

編集後記

民生委員児童委員活動の範囲が広まり、一層の活動の充実推進が求められている中で、その方策として広報活動が重要になります。

地域福祉の担い手である民生委員児童委員の存在や活動を地域住民に理解していただくための広報活動を強化する必要があります。

地域福祉活動等を「民児協あこう」でお知らせします。